



日本で暮らす ～災害に備えて～



コーディネーター

(一財)ダイバーシティ研究所代表 田村 太郎氏

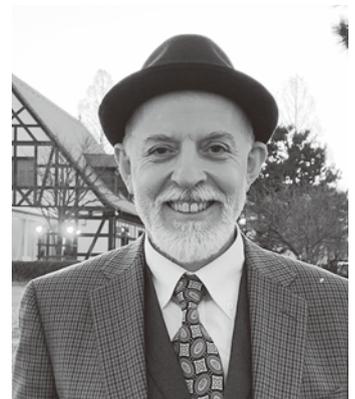
兵庫県生まれ。阪神大震災で被災した外国人への支援を機に「多文化共生センター」を設立。2007年から「ダイバーシティ研究所」代表として、人の多様性に配慮のある地域や組織づくりを推進している。東日本大震災や熊本地震、2024年能登半島地震でも被災者支援に携わる。復興庁・復興推進参与、大阪大学大学院と日本女子大で非常勤講師。



パネリスト

セイハン・デニズ氏（トルコ出身）

トルコ、マラティア県出身。イスタンブールで製菓職人をしていたが、国際結婚で2003年来日。トルコ国内のNGOで働く弟が2023年のトルコ・シリア地震の被災各県で復興支援活動に携わっていることから、日本のNGO「CODE海外災害援助市民センター」の支援活動とつないだ。



ジャップティ・ビク・ゴック氏（ベトナム出身）

日越支援会と西成労働福祉センターに勤務。
6年前に実習生として来日し、2024年にNPO法人日越支援会を立ち上げ、能登の被災者支援（炊き出し）にも参加。
ベトナム人の一員として日越の関係をさらに深め、在日外国人と地域の人々との架け橋になりたいと日々活動。



アディカリ・ビカシュ氏（ネパール出身）

8年前に日本に移住し、現在は大阪在住。日本文化や人々に深い愛情を抱いており、仕事のかたわら社会活動にも積極的に参加。
海外在住ネパール人協会(NRNA)日本支部のメンバーとして、献血活動やネパール語の通訳・翻訳、国際交流会への参加など、様々な活動に携わる。地域社会に貢献し、人々との繋がりを深めることに喜びを感じ、これからも、日本での活動を通じてより良い社会を築き、多くの人々に影響を与えることをめざしている。

